



サルビア

～自分たちの安全を真剣に考える子どもたち～ 伊勢崎市立赤堀東小学校 令和6年11月8日 第64号

より実践的に考える安全教育

10月22日の学校だよりでご紹介した避難訓練を、11月6日（水）13:05から、予告なしで実施しました。「今起こったらどうするか」を考えておくことが災害対策の肝心なところと考えての取り組みです。二つの取り組みの様子についてお伝えします。

＜取り組み1＞もしもの状況を考える学習「クロスロード」

9・10月中に学級ごとに実践しました。3つの課題と、子どもたちの回答を抽出でご紹介します。（学年の発達段階に合わせて考えてもらいました。）

- 課題① 夕方、下校中に大きな地震が発生しました。あなたは家と学校の間地点にいます。あなたは家に帰りますか？それとも、学校に戻りますか？
- 回答
- ・家に戻っても家族がいない場合があるため、人がいる学校に行った方が安心。
 - ・家の方が大事なものもあるし、家族の生存確認や、身を守れるものもあるから。
- 課題② 夜、家にいるときに大きな地震が発生しました。家は壊れませんでした。家族が倒れた家具の下敷きになって、隣の家が火事になっています。あなたは一人で逃げますか？それとも家族を助けますか？
- 回答
- ・大きな地震なので消防士に電話するのは難しいので、まずスリッパをはき外の様子を確認してから親を助ける。
 - ・逃げる。逃げるというより一人じゃ無理だから助けを呼ぶ
- 課題③ 避難所に来て数時間がたちました。水や食料は、まだ届いておらず、周りの人はお腹をすかせています。自分は鞆にお菓子を持っています。あなたは、お菓子を食べますか？それとも、食べるのをやめますか？
- 回答
- ・一人で食べるのではなく、家族と分け合ったりして食べる。
 - ・お菓子を食べてもすぐ食料や水などが来る保証がないから食べない。

＜取り組み2＞予告なしの避難訓練（11月6日）

地震発生放送「地震です。直ちに『落ちてこない・倒れてこない』場所で、しゃがんで頭を守りなさい」で、子どもたちは指示通り適切な行動がとれました。2分後の放送「揺れが収まりました。児童はあわてずに校庭中央に避難しなさい」でも、慌てずに避難ができました。教室での授業中以外の時間に、予告なしで避難訓練を行ったのは、初めての試みでした。今回の訓練の意味を深く振り返る子どもも多く、意味ある取り組みにできたと感じました。

○振り返り

- ・いつ地震や火事が出るかわからないんだなと思いました。
- ・何も言えなかった。机の下に隠れてた。
- ・冷静に何をするか考えた。少し静かにできなかった。
- ・訓練は命を守る大切なものだ改めて思いました。
- ・今回は急だったから本当に地震があったときは連絡も何もなく起こるから、その時用にちゃんと訓練できてよかったです。
- ・どこにいても、いつ地震が来ても自分で自分の身を守らないといけないということがわかりました。急に放送が流れたから少し焦ったけど、落ち着いて行動できたと思いました。
- ・自分の身を守るために素早く、あわてずに行動した方がいいと、この訓練でよく気づきました。本当の地震の時、この二つを実行しようと思いました。
- ・先生が近くにいないときのために避難の仕方を覚えておいた方がいいと気づいた。
- ・低学年の子が避難するときに、わからなくなっていたので導いてあげました。
- ・校庭のどこに集まるのかしっかりと把握できていなかったところは改善したい。
- ・体育館の窓が劣化していて、地震などが起きた際、窓が割れてしまうのでは？と思った。